

## 26 繰り返されるコアグラタンポナーデのために、拳児希望にもかかわらず性交不能になっていた特発性射精後血尿に、漢方薬の加味法が奏功した症例について

医療法人社団 メディカフレンズゆう 湘南台 腎泌尿器・漢方クリニック<sup>1)</sup>  
医療法人 あじさい会 なかい ファミリークリニック<sup>2)</sup>

友田 岳志<sup>1)</sup>、浅岡 美保<sup>1)</sup>、渡邊 岳志<sup>2)</sup>

### 緒言

射精後血尿は比較的稀な疾患であるが、20年以上にわたり間欠的に発症し、射精後にコアグラタンポナーデを繰り返すために、拳児希望にもかかわらず性交が出来なくなるケースは珍しいと思われる、そのような疾患に漢方薬が奏功した症例を経験したので報告する。

### 症例

19歳射精後の肉眼的血尿を自覚。初回は自然軽快した。

20歳代後半射精後にコアグラタンポナーデとなり、総合病院で精査を行うが原因不明。その後の射精時は異常が認められなかった。

38歳第一子誕生。このころより射精後の肉眼的血尿およびコアグラタンポナーデが頻発し、緊急入院3wayバルーンカテーテル留置し還流処置を繰り返し受けるようになる。泌尿器科クリニックおよび総合病院泌尿器科で造影CT、MRI、尿道・膀胱内視鏡、尿細胞診、採血などを有症状時はもちろん、無症状時も定期的にうけるが全く異常を指摘する事ができず、血精液症さえ認められなかった。治療方針は薬物や外科的処置はないため、出血時には緊急入院し3wayバルーンカテーテルで還流処置を受けると云う事であった。そのため、拳児希望にもかかわらず性交渉が2年以上不可能な状況が続いているとのことで、当院を受診した。

コタロー芎帰膠艾湯とコタロー黄連解毒湯を併用したところ、射精後の血尿は認められなくなり、拳児はまだ得られていないが、性交が可能となり、当院受診後のおおよそ一年間の経過観察中には再発は認められていない。

### 考察

射精後の肉眼的血尿は、後部尿道血管腫、前部尿道血管腫、尿道乳頭腫、尿道ポリープ、前立腺部カルンクルで認められることがあるが、今回はそのような疾患が特定できず、特発性射精後血尿と考えられた。今回の症例では芎帰膠艾湯の加味法が有効であった。また、当院の経験ではその類似症例として、抗がん剤による出血性膀胱炎、抗凝固剤による膀胱出血、特発性腎出血、放射線性膀胱炎についても有効であった。

### 結語

芎帰膠艾湯の加味法(エキス製剤の併用)は簡便で、明らかな尿路上皮腫瘍や尿路結石症、感染症などが鑑別できたならば、特発性射精後血尿の治療の選択肢の一つとして考えられると思われた。